

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】平成 20 年 1 月 17 日 (2008.1.17)

【公開番号】特開 2001-185270 (P2001-185270A)
 【公開日】平成 13 年 7 月 6 日 (2001.7.6)
 【出願番号】特願 2000-361465 (P2000-361465)
 【国際特許分類】

H 0 1 R 13/405 (2006.01)

H 0 1 R 43/24 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/405

H 0 1 R 43/24

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 11 月 28 日 (2007.11.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

図 3、図 4 の (A)、図 4 の (B) および図 6 などにもまた参照すると、ハウジング 20 は全体的に第 1 の部材 24 と第 2 の部材 26 とを有している。図 6 に最良のものが示されたように、第 1 の部材 24 は、全体的に一体的にモールドされたプラスチック部材を有している。しかしながら、他の実施例において、第 1 の部材は、他のあらゆる適切な材料または材料の組み合わせを有することができ、また、複数の部品を有することができる。第 1 の部材 24 は、第 1 の端部 28 が第 2 の端部 30 からほぼ 90° 偏倚してほぼ直角に曲げられた形状を有している。しかしながら、第 1 の部材 24 は、直角コネクタよりもむしろ垂直電気コネクタ用に、真っ直ぐなものを含む他の適切な形状を有することもできる。図 6 に示された実施例において、第 1 の部材は、45° の角度のように互いに連続して角度を付けられた 3 つの部分 32、33、34 を有している。このように、第 1 の部材 24 は、内側 36 と外側 38 とを形成する。第 1 の部材 24 は、接触子 22 を位置付けるための櫛のように作用する。第 1 の部材 24 は、2 つの側部 36、38 に沿って、また 3 つの全ての部分 32、33、34 に沿って第 1 の部材内に延びている接触子収容チャンネル、または溝 40、42 を有する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

図 4 の (A) に最良のものが示されているが、チャンネル 40、42 は、好ましくは、ほぼ V 字状の形状を有しているが、またそれに代わって、部分 32 で各側部 36、38 に沿って深さが変えられてもよい。このように、部分 32 での隣接するチャンネル 40a と 40b とは、第 1 の部材内に異なった深さを有する。部分 32 での隣接するチャンネル 42a と 42b とは、同様に異なった深さを有している。しかしながら、チャンネル 40a と 40b およびチャンネル 42a と 42b は、対向する部分 34 で同様の深さを有していてもよい。好ましくは、深さの変移は、中間部分 33 とともにまたそれに沿った接合部で起きる。しかしながら、チャンネルの他の適切な深さ、および / または、深さの変移を有

することもできる。さらに、接触子収容チャンネルを有するいずれか一方の側部 36 または 38 のみが必要である。接触子 22 は、以下に、より詳細に述べるように、溝 40、42 内に配置されている。接触子 22 は、一般に、銅合金のような適切な導電性材料から打ち抜かれ成形されるが、適切なプロセス、および / または、材料が接触子を形成するために使用することができる。接触子 22 は、各第 1 の接続部すなわち第 1 の設置部分 44 と、対向する第 2 の接続部すなわち第 2 の設置部分 46 とをそれらの間に有している。この実施例において、第 1 の接続部分 44 は、スルーホールはんだ尾部として設けられていて、印刷配線板の孔内に挿入され、そこにはんだ付けされるように企図されている。しかしながら、第 1 の接続部分 44 は、どのような形状でもよく、たとえばスプリング接触子または表面実装はんだ尾部でもよい。中間部分 48 は、チャンネル 40、42 に設けられている。好ましい実施例において、接触子 22 は、接触子 22 をチャンネル 40、42 の第 1 の部材 24 に少なくとも一時的に取着するための保持あご部（図示せず）を有している。第 2 の接続部分 46 は、スプリング接触子ビーム部分の 2 つの列を有していて、それらの間に、対になるコネクタ（図示せず）の部分を実動可能に収容する収容領域 50 を形成している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

ハウジング 20 の第 2 の部材 26 は、接触子 22 がその中に挿入された第 1 の部材 24 上にまたはそれを超えてモールドされている。この実施例において、第 2 のハウジング部材 26 は、全体的に第 1 の部分 52 と第 2 の部分 54 とを有している。第 1 の部分 52 は、全体的に支持部 56、58、側部ラッチ 60、および凹部 62 を有している。支持部 56、58 は、印刷配線板または他の電子構成部品の表面にハウジング 20 を安定的に設置するのを助けるために設けられている。凹部 62 は、材料を節約するためとコネクタを計量にするためにのみ設けられている。第 1 の部分 52 は、端部 28 を除いて第 1 の部分 32 と中間部分 33 とで第 1 の部材 24 を取り囲んでいる。好ましい実施例において、中間部分 33 での外側 38 は、同様に第 2 の部材 26 の材料によって覆われていず、単に、第 2 の部材 26 の形成中に使用されたモールドによって第 1 の部材 24 がその位置において接触されるだけである。第 2 の部分 54 は、端部を除いてほぼ第 1 の部材 24 の前部分 34 を取り囲んでいる。